

勝敗を分けた 東郷平八郎の決断



「バルチック艦隊がどこに現われるか」

日本海海戦の勝因の一つに、ロシアのバルチック艦隊が対馬海峡を通るといって、連合艦隊の予想が的中したことが挙げられます。

ヨーロッパから回航してきたバルチック艦隊は明治三十八年（一九〇五）五月十七日、フィリピンと台湾の間のルソン海峡に入る。この情報を最後に、日本はその動向を見失っていました。

バルチック艦隊の目的地は、太平洋側におけるロシアの拠点・ウラジオストックです。ここに入られてしまうと、日本海の制海権を失い、満州で戦う陸軍の兵站（へいたん）がおよびやかされることになります。

ウラジオストックへのルートは三つありました。バルチック艦隊が通るのは、九州と朝鮮半島の間の対馬海峡か、太平洋側を迂回して本州と北海道間の津軽海峡か、はたまた北海道と樺太（から）の間の宗谷海峡か……。

五月二十四日の日没後、連合艦隊司令長官・東郷平八郎は各司令官、艦隊参謀長を旗艦「三笠」に召集します。このまま対馬に留まるべ

きと主張したのは、第二艦隊参謀長の藤井較一（いっし）。会議に遅れて参加した第二艦隊司令官・島村速雄（はやお）も、「もし私がロシア艦隊の司令長官であれば、最短の距離（対馬海峡を通るルート）で入港を目指す」と主張します。

ただ会議では、「連合艦隊を北方へ移すべき」という意見が圧倒的でした。

しかし、東郷は決断します。少数意見だったにもかかわらず、対馬に留まり、バルチック艦隊を待ち受けることにしたのです。この決断こそが、日本海海戦の勝利を大きく引き寄せた、いつても過言ではないでしょう。

そして二十七日早朝、仮装巡洋艦「信濃丸」から、バルチック艦隊発見の一報が入るのです。



三笠だより

今回はバルチック艦隊の進路を巡り、激論が交わされた司令長官公室、そして執務室をご紹介します。

歴史の息遣いが感じられる部屋

記念艦三笠には、東郷平八郎司令長官が使用した長官公室と執務室が、日露戦争当時のまま遺されています。

長官公室は各司令官や艦長との作戦会議、来賓の応接や晩餐会などに使われました。

ウラジオストックに向かうバルチック艦隊をどこで迎え撃つべきか、激しい議論が交わされたのが、この部屋です。連合艦隊に包囲されて降伏することになった、バルチック艦隊に所属する第三戦艦隊の指揮官ネボガトフ少将が、降伏文書に調印した場所でもあります。

長官執務室は、東郷司令長官が日々仕事をこなしていた部屋です。この部屋からは、艦尾にあるスタンウォークと呼ばれるデッキに出ることができます。艦尾遊歩道とでも訳すのでしょうか、帆船時代の名残とのこと。

まさに、歴史の息遣いが感じられる二部屋。現地へ赴き、日露戦争当時に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

三笠懐中時計 10,290円（税込）。戦艦タイプと電報タイプがあり、贈り物にも最適です。

今月のおすすめ商品

今月の読者特典

『歴史街道』二〇一九年三月号を三笠受付で見せると、先着10名様には不敗の戦艦三笠にあやかっただ三笠必勝しおり、又は三笠合格しおりをプレゼント！

記念艦三笠

観覧料金
大人 600円
65歳以上 500円
高校生 300円
小中学生 無料
京急横須賀中央駅もしくはJR横須賀駅より三笠循環バスで「三笠公園」下車、徒歩1分



TEL : 046 (822) 5225
http://www.kinenkan-mikasa.or.jp/
神奈川県横須賀市稲岡町 82-19

